

平成 29 年定期健康診断結果に関する年齢別有所見率について

労働者数 300 人以上の県内 130 事業場を対象に、平成 29 年定期健康診断結果に関する年齢別有所見率のアンケートを実施しました。結果は以下のとおりでした。

記

(1) 年齢別有所見率について

20 歳台から 60 歳台までのデータをみた場合、明らかに年齢と共に有所見率は高くなる傾向にあり、かつ、60 歳台では、ほぼ全員が何らかの項目において所見を有する結果となった。

(2) 男女別の年齢別有所見率について

年齢と共に有所見率が高くなる傾向は、男女共に変わらず、特段の差異は認められなかった。

(3) 項目別（血圧、血中脂質、血糖、その他）有所見率について

血圧、血中脂質及び血糖の 3 項目についてみた場合、共通して年齢と共に有所見率が高くなる傾向にある。このうち血中脂質については、20 歳台において既に 2 割以上の労働者に所見を有する結果となった。

(4) 男女別での項目別（血圧、肝機能、血中脂質、血液一般）有所見率について

20 歳台で血中脂質の有所見率は男女共に 1 割を超える。

(5) 若年層においても、高い割合で血中脂質に所見を有するが、これからの健康診断有所見率の改善を図るうえで、若年性労働者の「血中脂質」管理の改善に係る健康管理が重要となる。

(6) 高年齢層で唯一有所見率に改善傾向がみられるのが肝機能の有所見率で、男性の場合、40 歳台を境に改善傾向にあり、女性も 50 歳台を境に改善傾向にある。